

## 信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会 全体協議会 議事概要

開催日時：令和8年3月16日(月) 14:00～15:30

場 所：長野県高校教育会館 R i n k s 5 9 3 及び オンライン会議

出席者：72機関／全76機関

(市町村38／全41、学1／全1、国県27／全27、オブザーバー6／全7)

### 【議事次第】

1. 開 会
2. 議 事
  - (1) 信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会規約改正(案)について 【資料1】
  - (2) 長野県における流域治水の今後の取組について 【資料2】
  - (3) 自分事化に向けた取組計画・ロードマップについて 【資料3-1】  
令和7年度自分事化に向けた取組について 【資料3-2】
3. 報告事項
  - 中野市総合浸水対策計画(中野市) 【資料4-1】
  - 河川における有害鳥獣対策の実施について(飯山市) 【資料4-2】
  - 千曲川上・下流住民による共同植樹会(青木村) 【資料4-3】
  - 気象業務法の一部改正について(長野地方气象台) 【資料4-4】
4. 信州大学 工学部 流域治水研究センターより話題提供【資料5】
5. 閉 会

### ■議事(1) 信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会規約改正(案)について

- ・ 改正について、了承された。

### ■議事(2) 長野県における流域治水の今後の取組について

- ・ 質問、意見等なし。

### ■議事(3) 令和7年度自分事化に向けた取組について

長野市 荻原市長(代読)：

- ・ 本市では、知識での意識向上、身近な浸水被害解消、流域治水の推進をテーマに掲げ、地域・教育機関・行政等の関係者が参加し、長野治水対策研究会を開催している。今年度は2月13日に開催し、講演や話題提供の他、信州大学、長野工業高等専門学校から身近な浸水対策と防災意識の向上をテーマとした調査研究について報告があった。近年増加傾向にある集中豪雨の際に市内の中小水路の浸水被害の軽減に繋がる研究であり、今後の実装に向けてさらに調査研究を進めていく予定である。

#### 中野市長：

- ・ 水災害のリスクや流域治水について知る機会を増やし、自分ごとと捉えることを促す取り組みとして防災出前講座及び教材等を用いた防災教育を行っている。実際に経験することにより災害があった際に焦らずに経験を活かした行動をしていただくことを目標としている。
- ・ 水災害対策や流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、行動を誘発する取り組みとしては、水防体制の強化を図る共同訓練の実施、マイ・タイムラインの作成支援及び地域防災計画等の策定を行っている。

#### 飯山市長：

- ・ 飯山市では自分ごととして捉えることを促す活動の1つとして、3D都市モデルを活用した千曲川氾濫シミュレーションの作成に取り組んだ。災害時の状況を具体的に可視化・見える化することで市民の防災意識の向上に繋げることを目的とし、流域治水を市民1人1人の問題として捉えてもらうためにハザードマップの効果的な活用として洪水・浸水想定災害リスクを3D都市モデルデータとして構築した。市街地を中心に時系列で震災が広がる様子をシミュレーションしており、今後はホームページなどでの公開を予定している。
- ・ 引き続き市民1人1人が治水について関心を持ってもらえるよう取り組んでいきたいと考えている。

#### ■全体を通しての意見

##### 須坂市長：

- ・ 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」との言葉がある。上流に感謝をしなければいけないということを教えていただいた。まさに、千曲川水系はそういうことで大切なことだと思った。
- ・ 須坂市においては、ハード対策として村山橋から屋島橋まで粘り強い堤防強化工事を昨年度中に完成していただき感謝する。設置する看板では堤防の構造等が判るようになっており、これから子供や孫世代になった時にあの堤防はいかに構造的にすごいものかということが分かってもらえると思う。
- ・ ソフト対策としてコミュニティタイムラインの策定を国・県よりアドバイスをいただき、千曲川沿川全ての自治会地区で策定された。コミュニティタイムラインの北相之島地区の区長が全国会議で発表したことが非常に励みになっている。
- ・ 国・県そして市町村、関係団体が連携して、このように取り組むということは、これからの時代は大切なことだと思う。

#### 麻績村長：

- ・ 麻績村は上流域ということで、下流域へ流す水については調整しなければならないと考えている。
- ・ 住民と話す中で、極力水を一時的に流さず、継続的に流す際は、ダム貯水調整、40近くあるため池等による水の調整により、下流への一時的な水の流量を減らすというような取り組み等について、お願いをしているところである。
- ・ 啓発活動をする中で、ダムを見てもらうとか、色々な河川等の現状を見てもらうとか、住民対応もしているところであるが、いずれにしても上流は下流の方へ水を一気に流さないという形の中で、下流に対する災害の未然防止に向けていくらかでも協力できればと思っている。

#### 朝日村長（代理）：

- ・ 鎖川は地域の農業を支える重要な河川である一方で、近年の気候変動に伴う豪雨の激甚化による災害リスクを有しており、土砂災害をはじめとする水害への備え、そして重要性を強く認識している。
- ・ 流域治水は河川管理者だけではなく、流域に関わる自治体や住民、事業者が連携し、流域全体で水害対策に取り組むという点で非常に重要であると考えている。
- ・ 今後も関係機関や地域の皆様と連携しながら、流域全体での防災減災の取り組みを進め、安心して暮らせる地域づくりに努めていく。

#### 野沢温泉村長：

- ・ 流域治水の重要さと併せ、表現が少し誤解ないようにしたいが、「流す・貯める・備える」、特にこの「流す・貯める」というところを流域で取り組むということの奥深さと面白さのようなものを感じている。
- ・ 地域の子供たちにも、興味を持ってもらえるような教育に取り組んでいきたいと思うし、出向いた際には細かく住民が興味を持ってもらえるような説明を重ねている。
- ・ 地域住民が日頃からこの自然の豊かさを感じて、この恩恵を受けて幸せに暮らしながらその自然のその脅威、力みみたいなものも身近に感じとれる場面、場所を有効に使うという機会を設けていくことも大切と感じている。

#### 栄村長：

- ・ 流域で治水に取り組むということは、特に下流域の安心に大きく繋がるような気がして、改めて重要なことと思っている。
- ・ 長野県においても、これからは圏域毎の特性や課題を踏まえた取り組みをさらに進めていくということであり、地域の要望に沿った具体的な形となって、河川との親近感をもっと増していくということに繋がってくると思う。

- ・ 広報などを使って治水に関わる工事の周知や、学校を巻き込んだ現場の工事の見学などを通して、村民から広く関心を持ってもらえるように努めている。
- ・ 流域治水協議会のさらなる事業の推進に期待をして、村としてもできる取り組みをこれからさらに、力を注いでいきたい。

## ■報告事項

### 中野市長：

- ・ 中野市総合治水対策計画は、流域全体で浸水被害を軽減し、治水安全度の向上を図ることを目的として令和5年3月に策定し、概ね10年間を目安として国や県が実施する河川改修や水門・排水ポンプの適切な管理と流域内での雨水の貯留浸透、排水路の改善などの総合的な対策を具体的に組合せ、中野市が実施できる施策を示したものである。
- ・ 事業進捗状況などについては、年に1度、中野市総合治水対策合同会議を開催し、県及び各事業の関係部署と情報共有し社会情勢の変化、技術の進歩、進捗状況などの結果を踏まえ取り組み目標など内容の見直しを適宜行っている。
- ・ 近年、気候変動による豪雨が増加し、全国各地で水害が激甚化・頻発化しているため、流域治水の取り組み推進にはこれまで治水を担ってきた国、そして県による河川整備だけでなく、近隣市町村、民間事業者などのあらゆる関係者が参加意識を共有し、具体的な達成目標を定め、計画に取り組む必要があると考えている。

### 飯山市長：

- ・ 有害鳥獣対策の一環として、河川事務所に千曲川の河川敷における流木・立木の伐採や繁茂していた草木の除去を実施していただいた。
- ・ 実施後は、河川敷の見通しが大変良くなり、有害鳥獣対策としてだけでなく、増水時の流下能力の向上、景観保全にも大変効果的であったと捉えている。
- ・ 本年も雪解けが早いので、再びこの鳥獣、特にクマ、あるいはイノシシの危険が懸念されるが、今回実施していただいた対策は非常に有効であった。

### 青木村長：

- ・ 上・下流の住民の交流や山に木を植えて保水しようという提案をこの協議会でさせていただき、令和4年から始めている。令和元年東日本台風の際に長野市長沼地区の皆さんに災害を受けた後、青木村のタチアカネ蕎麦をキッチンカーを持って行って振る舞ったり、あるいは災害後の節目節目のイベントにお蕎麦を食べていただくといった交流をしてきた。上流が持っている治水と山が持っている課題、あるいは下流の皆さんのそれぞれ悩み、被害というものを共有したいという思いで、この共同植樹会を始めた。
- ・ 長沼の自治会の皆さんと青木小学校の緑の少年団、民間の皆さんにもご参加をいただ

いた中で、森林の持つ治水効果であるとか、土砂災害防止の機能とか、そういったものを学んでいただいている。植樹会だけではなく、緑のダムを青木村としても最上流の村として、やっていることをご参考にしていただければ幸いです。

■信州大学 工学部 流域治水研究センターより話題提供

以上